

研修名 食育・アレルギー対応

令和2年1月14日（火）13：30～16：00

講演 「アレルギー疾患の理解と

保育所におけるアレルギー対応について」

講師 田辺中央病院

副院長・小児科部長 近江園 善一 氏

1 講演要旨

① アレルギーとは

食物や花粉など体にとって有害でないものに対して過剰な免疫反応（体から除去しようとする反応）が起こり、体に不利益な状態を引き起こしてしまう反応のこと。

アレルギーには4種類あるが、特に重要なのはIgE抗体が関係するⅠ型アレルギー（即時型反応）で数分から数時間で反応が現れる。

② アトピー性皮膚炎とは

アトピー性皮膚炎と食物アレルギーは別の疾患である。乳児期は乳児湿疹との区別が難しいが、ある程度の期間続いているかどうかで診断する。治療としては入浴後すぐに（5分以内）に保湿クリームやステロイド軟膏で保湿ケアを行う。

③ 気管支喘息とは

主にアレルギー性気道内の慢性炎症疾患。夜中から明け方にかけて発作を起こすことが多い。

④ 食物アレルギーとは

本来なら体にとって栄養となるはずの食物に対して、過剰に免疫反応が働いて起きる現象。即時型症状にはとくに注意が必要で、症状が早く出るほど重症である。アナフィラキシーの場合5～15分で症状が出る。

誤食の原因は鶏卵・牛乳・小麦が多く、保育園での誤食対策が重要である。新規発症は魚卵・ピーナッツ・果物が多い。未摂取なら保育園では摂取しないようにする。

乳児期に発症した食物アレルギーは大部分の症例で自然寛解（耐性獲得）していくのが特徴。しかし、小さいころから食べていないと嫌いになってしまっていることもある。

アレルギーの最も確実な診断方法は、食物経口負荷試験である。治療の基本は正しい診断に基づいた必要最低限の原因食物の除去。どれくらい厳しく原因物質の除去を行うかは個々に評価・判断が必要であるため、主治医とよく相談して決める。

アドレナリン注射（エピペン）は一人に一つの処方しかできなくなった。そのため、保育園や学校では毎日持ってきてその都度持ち帰るようにする。冷暗所で保管し、教職員が保管場所や使用方法を共通理解しておく必要がある。

2 感想

アレルギーに関しての基本的な知識を分かりやすく教えていただきました。保育園でも色々なアレルギーを持つ子が増えてきています。ひとりひとり症状や対応が違うため、その子に合わせた園での援助や工夫を園全体の共通認識として持っておく必要があると再認識しました。

エピペンを持っていたとしても実際アナフィラキシーショックの症状が出ているときに正しく使われていることは少ないと講義の中でお話がありました。練習用のエピペンを触り、使用方法を教えていただけたのが良かったです。食物アレルギーはいのちに関わることもあるため、子どもの様子を気にかけて、症状がでたときの対応の仕方についてもしっかり理解しておかなければいけないと思いました。

記録 多賀保育園 横田明菜